

## 本場のインド教育を探る！ ～幼稚園から高校まで一貫教育～

日本では今、インド教育への関心を持つ人が増えているようです。インド式数学教育や英語による授業が子どもたちをグローバルな人材に育ててくれるという期待から、インド系インターナショナルスクールがある地域の周辺では「インド人学校」に入学を希望する日本人もいるようです。

そんな熱い視線が注がれるインドの学校とはどういうものなのでしょうか。今回、インドの首都デリーにある、St. Xavier's Senior Secondary School を視察しましたので報告します。

### 1 St. Xavier's Senior Secondary School の概要

1960年、男子校として設立された私立のカトリック校で、幼稚園から高校までの一貫教育を行っています。現在は男女共学、在校生数は4,200名です。

訪問時、校長室のそばで長蛇の列ができていました。校長先生に尋ねたところ、4月に新学期を迎えるNursery School（幼児教育）への入園申込みに来ている保護者の列であり、およそ3,000名の申込みに対して入園できるのは300名で、競争率は10倍になるとのことでした。



St. Xavier's Senior Secondary School  
低学年校舎（外観）



校舎内に移動する低学年の児童

Nursery School への入園が叶えば、大学進学前までずっとこの学校で学ぶことが出来るのです。選考の基準で有利なポイントは、学校からより近いところに居住していることだそうです。

Primary（初等教育：小学校）、Middle（前期中等教育：中学校）そして Secondary School（後期中等教育：高等学校）と進級し、最後の2年間は専攻した科目を学んで、卒業後は9割の生徒が大学に進学しています。アメリカ、イギリス、オーストラリアなど海外の大学へ留学

するケースもありますが、日本の大学へは今のところ実績がないとのことでした。校長先生は、日本の大学は留学生を受け入れる環境が整っていないため、奨学金制度や学生寮、何より英語による講義を充実させる必要があると話していました。

## 2 インドの教育制度の特徴

インド政府は「国民皆教育戦略」を掲げて、公立校には、児童・生徒数の25%は低所得階層の子どもたちを通わせるよう義務付けています。非都市部においては貧困のため子どもを学校に通わせることが出来ない家庭が存在するのも事実であり、学校は給食や文具等は無償で提供するなど様々な努力をしています。一方、私立校にはその義務はなく、各学校独自の取組みで教育の機会の提供に協力しています。同校では奨学金制度を設けており、現在全校で40名ほどの児童・生徒がこの奨学金で学んでいるということです。

また、児童・生徒数が多い公立校では一日の授業を午前と午後に分けて行うそうです。要就学者数に合わせて学校を作るのは非効率的という考え方なのかもしれません。インドでは子どもたちが教育を受ける場合は必ずしも公教育とは限らないからです。貧困層の子どもたちに教育の機会を提供するNGO等によるノンフォーマル教育にも政府の関与があり、公教育と同様の取扱いになっています。公立校での25%の受入枠と同様、「国民皆教育」の実現に寄与しているのです。

インドのすべての学校は、The Central Board of Secondary Education、The Council for the Indian School Certificate Examinations、State Governmentsが国の教育方針に従って作成した教育要綱を採用しているため、公立、私立共に教育の基本は同じになりますが、同校ではカトリックの教えを教育理念に取り入れ、児童・生徒のあらゆる可能性を引出すための包括的教育を行っています。

## 3 校内視察を終えて



休み時間の様子

校長先生に校内を御案内いただきました。科学実験室や図書室等の特別教室の他、授業中の教室も見せていただくことができました。2学年のクラスはまだあどけない子どもたちです。校長先生が教室に入ると皆一斉に立ち上がって「Good morning Father!」と挨拶をします。休み時間に校舎の外に出ると、校舎や植栽の脇に腰かけてノートや本を覗き込む児童・生徒の姿が目立ちました。何をしているのかと尋ねると、試験が近いので勉強をしていると答えました。中には劇の練習に励むグループもあり、校長先生からは授業の一環で劇を行っているという説明を受けました。仲間と協力して演じる劇は、協調性と創造性を育てます。様々な教育プログラムが展開されている様子が窺えました。

校内を視察している間、校長先生の姿が見えると低学年から高学年まですべての児童・生徒が敬意を込めて礼儀正しく挨拶をする姿には、とても清々しい印象を持ちました。教室や校庭で児童・生徒たちは実にのびやかに過ごしているように見えたが、規律はし

っかり守られて、統率がとれているとも感じました。

今回視察した St. Xavier' s Senior Secondary School と同じように、日本のインド系インターナショナルスクールでも、幼稚園から高校まで一貫教育が行われています。数学教育や英語による授業に加え、自主性と協調性を育むインドの伝統的な教育こそが、学力だけでなくグローバル社会で生き抜く力をつけるための教育を受けさせることに興味のある日本人の関心を呼んでいるのではないのでしょうか。

(鈴木所長補佐 東京都江東区派遣)

